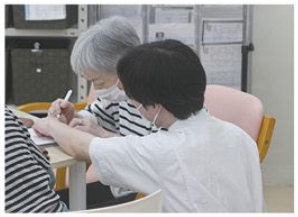
ニッポンの敬護企業名鑑

Vol.5 July 2024 Editing by Rehaprime

敬護
介助して護る介護ではなく
敬って護る「敬護」を。

学びが思い込みを変え、進化成長に繋がる。
敬護体現の先頭を走る小池社長とのご縁に感謝！



我が社の「3分進化動画」と「コンパスアカデミー」活用方法！

視聴を促している現場の管理者とは、アカデミーや3分進化動画内の小池社長の言葉に触れるたびに、物事の捉え方や考え方が心にスッと入り、毎日のいろいろな局面で「あっ！これは小池社長があの時に動画で仰っていたことだ！」と繋がることが多い、と話しています。結果としてネガティブに悩んだり囚われてしまうことが減ってきているようです。私もスタッフとの面談で言葉のチョイスなど、活用させていただいてます。

コンパス加盟各社様は、専用サイトから過去のアカデミーをご視聴いただけます。

コンパスアカデミーのテーマ（2024）　毎月1回（2時間）、各拠点に向けてZoomによるオンライン配信しています。

①CLO研修
②ビジョン・ゴールの知識と創り方
③敬護人 7つの心得
④SKYSIGHTの人生経営
⑤感情のマネジメント
⑥思考のマイルール
⑦リーダーとは？
⑧コンパスコーチング入門
⑨タイムマネジメント
⑩チームビルディングとフォロワーシップ
⑪進化成長の方程式
⑫決断と行動のスキル

editor's note（取材を終えて）

木村薫社長は、元コンパス訪問看護のセラピストです。敬護の理念に本気で賛同してくれて、自らコンパスウォークを起業するという話をしてくれた時はうれしかったとともに、とても驚いたのを昨日のことのように覚えています。
積極的に出店を重ね、社員を大切にし、幸せにするという視点で、ご夫婦揃って敬護を実践されています。毎日をとても楽しみながら前進するところが、素敵です。
これからも長いお付き合いをずっとよろしくお願いいたします！

リハプライム株式会社　代表取締役　小池 修

ニッポンの敬護企業名鑑　発行：リハプライム株式会社
〒330-8669　埼玉県さいたま市大宮区桜木町1丁目7-5ソニックシティビル26階
TEL：048-657-8876　FAX：048-657-8812　https://keigo-group.co.jp/

現在の事業内容は？

2017年に埼玉県で起業して、現在、コンパスウォークを3拠点（埼玉県＝与野・北浦和、北海道＝室蘭）、また福岡県宗像市に療育サポートセンター「KOTOーRO宗像」を開設し、児童発達支援事業、放課後等デイサービス、居宅訪問型発達支援事業、保育所等訪問支援事業を行っています。今後は介護タクシーや旅行支援などにも取り組みたいと考えています。

病院勤務の作業療法士として思っていたこと

学校卒業後、もともと作業療法士として福岡県内の総合病院に勤め急性期リハビリや訪問リハビリに携わりました。責任ある仕事も任されていたのですが、大きな病院特有の、職種ごとに縦割りで患者さんに接するという仕組みや、役職者が自分の職場を指して「ココには自分の親は預けられないよね」なんていう発言があったり、違和感を感じてもいました。

この方にとってのゴールは？

例えば急性期の患者さんがしっかりとリハビリをして自宅退院というゴールを迎える。でもその後、再骨折で病院へ戻ってくるという風景を何度も見てきました。訪問リハビリを経験し、患者さんにとって自宅退院はゴールではなくスタートであり、退院時が一番元気なのでは？と感じました。さらに退院しても患者さんは「楽しむこと」を選択できなくなっている、そもそも諦めているとも感じました。自宅退院後の目標は十人十色多種多様であり、在宅生活の維持には個々に合わせた支援が必須だと感じていた福岡時代でした。

敬護との出会い

だから（敏幸さんとの）結婚を機に埼玉に転居となったとき、次の仕事は、ご利用者様の日常の中で、より近い位置で、目の前の方のゴールを共有して一緒に叶えたい、というのが条件で、その一点で辿り着いたのが、（リハプライムが運営の）コンパス訪問看護ステーションのホームページでした。「リハビリは手段であって目的ではない」、「シニアの方の意欲の創出」というような、当時の自分が「やりたい！」と思ったことがカタチになっている！と興奮して、即応募したのを覚えています。

やりたいことが次々と浮かんできた

訪問リハビリで働いていると、安全であるはずの生活の場は、実は制限が多い状況ということが多々あり、それは長く生活をされているご利用者様にとって気づきにくいと実感しました。例えば若く元気な時に選んだ家は、加齢とともにその環境に適応しなくなり、たった1センチの段差でも転倒の原因となりうるから改修を提案しようとか、ベッドの位置を少し変えるだけでトイレに行きやすくなる、とか。もともと福祉用具に関する資格を持っていてバリアフリーアドバイザーをしていたこともあり、生活環境の評価や提案をし、お困りごとを解決していました。そんなお話をしている中で、楽しみであった旅行を諦めている方が多く、支援制度やサービスのない現状を寂しく感じていました。そんな経験からリハビリだけでなく生活や楽しみも支援したいと思うようになりました。

両親からの教え

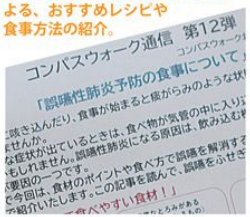
仕事もプライベートもイキイキと過ごす毎日でしたが、ある日突然、父親が倒れリハビリが必要となりました。集中治療室にいる父親の姿を見た時、作業療法士という見地から福祉用具や住宅改修などあらゆることを考えましたが、それ以前に、今後の人生も楽しく笑って、自分らしく今までのように過ごしてほしい、過ごすためにはどうすればいいかをとても強く思ったんです。

昔から父や母から「女の子だからって遠慮せず、好きなことをやりなさい。何かあったら私たちが助けるから」と言って育てられてきました。そんな背中を押してもらえる言葉の一方で、もしかしたら作業療法士として起業して、父母が住む大切な場所でデイサービスを運営したら、自分の事業で親を護るという最高の恩返しができるかもしれない、そしてその考え方をサポートしてくれる仕組みが今の会社にはある。何よりイキイキとして毎日を過ごす両親に、今の私を見せてあげたい。もともとワクワクすることを考えることが大好きだったので、実現に向けて動き出したのは入社後、1年が過ぎたころでした。

資格取得支援を使って、スキルアップ！

ご利用者様のお誕生日を全力でお祝いします！

ネームプレートの裏には、個別対応のリハビリ・メニュー！



店舗内のあちこちにご利用者様の手作り作品の数々が！

最高の理解者であり、伴走者

起業にあたり、やはり大きかったのはパートナーの敏幸さんです。当時は大手企業で人事部門を統括していたのですが、そこを辞めて一緒に始めないか？と相談したんです（笑）。いま思うとよく決断してくれたと思います。

敏幸さん　まったく異なる業界でしたが、何より本人がイキイキとやりたいことを語るんですよね。北海道や沖縄にも店舗をつくりたい、なんなら社員は宿泊もできるようにしたらいいな、とか。大切な人が大切にしていることを一緒になって仕事ができたら、いいな、と。もし万が一何かあれば、僕がなんとかすればいいか、という感じでした。当時、要支援1などの言葉を僕はわからないけど（笑）、そこは本人に任せられる。僕は経験を生かして営業だったり、会社の体制づくりに注力しようと考えました。

社名に込めた想い

最高の理解者とともに起業に向けてともに歩みを進めましたが、例えば社名などは一緒に考えに考えました。Famstation＝Family（家族）＋station（集まる場所）。大切な家族を想うように、集まる方々、集まるスタッフもみんなが笑顔で楽しく過ごせるように。福岡の病院時代にあった「お母さんが自分の子供の旗振り当番のために休むこともままならない」というようなことは絶対に避けたい。スタッフが自分の親を通わせたい店舗をつくりたい、そんな家族（感）という言葉を大切にしています。大切な人が大切にしていることをチームで共有する。これは小池社長がいつも仰るところの「メンバーの価値観をチームで共有する」ということなんだと思います。

働きやすい環境づくり

だから、福利厚生などは特に大切にしたいと考えています。たとえばスタッフのスキルアップは本人の成長とともにご利用者様のためにもなるので、研修会の参加補助や、資格取得支援の金銭的な補助をしたり、スタッフのお誕生日の月には特別休暇（有給）を付与したり。ある店舗で親睦をかねて食事会を開催しようとしたところ、お子さんがいるので大半が不参加になりそうだったので「じゃあ、お子さんの分も会社で負担するのでぜひ！」みたいな形にしたり。いま思うと福岡でやりきれなかったことをひとつずつ進められているような気がします。

自立自走のチーム力が、ご利用者様と店舗を護る

そうした環境を整えていくと、並行してそれぞれの店舗で様々な行動が生まれていきます。ご利用者様が「満開のバラを見たい！」と言えば外出支援でバラ祭りツアーを組んだり、柔道整復師で栄養士の資格を持つ北浦和店の菅野さんなどは、テーマに沿ったお料理のレシピや嚥下など食事方法を新聞にして定期的にお配りしたところ、「実際に料理を作ったよ！」というご利用者様から写真をお送りいただく、などなど。作業療法士という私の経験を生かし、書字や箸動作の改善、握力強化につながるような手指の訓練用具を取り入れ、積極活用してくれていたりします。

心が動けば身体が動く

弊社の理念は「心が動けば身体が動く」です。心が動かなければ、動く身体を持っていても行動はしません。大好きなお孫さんと一緒に買い物に行きたいな、コンパスだったら楽しいから行きたいなと、心が動くと身体も動きだします。心が動くからワクワクして楽しい。そしてそれは「家族」であるスタッフにも当てはまります。

ご利用者様もスタッフもワクワクと楽しく心が動き、自然と身体が動くような、そんな会社を創っていきたいと思います。

data

株式会社Famstation

所在地／埼玉県さいたま市桜区大字白鍬39番2　**設立**／平成29年9月　**従業員数**／44名（パート含む）　**代表者**／木村薫　**事業内容**／歩行訓練特化型デイサービス運営、児童発達支援事業所、放課後等デイサービスほか